



竹の子川柳会

あついなつおひさまあたるあせかいた 小二 優
 しぜんはねみどりいっぱいげん気てる 小二 隆 希
 ともだちとしぜんのなかであそびたい 小二 心 香
 あついひにすいかわりするたのしいな 小三 勇 斗
 大雨でくつ下ぬれたびつしよぬれ 小三 みるく
 テストの日えんぴつつかむドキドキだ 小四 心 春
 キックオフうだる夏の日ワンゴール 小五 太 清
 雨上がり外へかけだす子ども達 小五 翔 太
 雨の日はかえるよろこび大合唱 中二 清 也
 雨上がり青空ともに虹笑う 中三 海 斗
 卓球で金をつかむのぼくの夢 中三 海 士
 雨上がり青空写る水たまり 高一 ななみ
 止めれない自然災害恐ろしい 高三 瑠 依
 体育祭その手でつかむ優勝旗 高三 ちひろ

ひよし川柳会

中国産のマスクで命再稼働 若宮 賢敬
 安倍のマスク忘れた頃に配られる 大崎 五葉
 ノーメイクマスクするからまあいいか 伊勢本 恵
 マスクしても目尻がいつも笑ってる 中城 英雄
 コロナに豪雨次々発生悩み種 熊本 忠真
 未婚主義種の存続が黄信号 川添 忠昭
 梅の種噛み割った歯も今入れ歯 渡辺 光男
 あとつぎが出来たこの種親以上 菅原 由紀
 うわさの種一人歩きをしてみよう 兵頭チヨカ
 あら不思議手品納得種明かし 宇都宮 忍
 バラ蒔いて芽生えいろいろ余り種 水野すみこ
 さてはもう根廻し出来ていた話 山本 節
 濃お茶出され喜ぶ年になり 木村 貞子
 祖母が植えた大樹となった杏子種 兵頭 好子

鬼北の足跡をたどる



解説・等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説③

1320年に開山した等妙寺は、2020年の今年、700年の節目を迎えました。前回、「等妙寺縁起」の成立時期やその背景を紹介しましたが、今回は縁起に記された内容を取り上げます。

寺社縁起とは、寺院の開創の由来や沿革霊験などを記した文書等のことです。「等妙寺縁起」には、開基以後の等妙寺の歴史が記されており、この中でも多くを占めるのが等妙寺の開基伝承です。等妙寺の開基は「曾我物語」の主人公である曾我十郎・五郎兄弟とその従者、鬼王・段三郎にまつわる伝承で彩られ、語られています。「曾我物語」は、鎌倉時代初期の建久5年(1193)5月、源頼朝が御家人を率いて富士裾野の巻き狩りの際に、曾我十郎祐成・五郎時致の兄弟が、父親の仇である工藤祐経を討つて、永年の恨みを晴らした後、命を落とすという話が題材となった軍記物語です。日本三大仇討ちの一つで、鎌倉時代に原形ができ、南北朝時代には本になり一般に広まりました。江戸時代には歌舞伎や浄瑠璃などで演じられ、さらに広まっていきました。これの唱導、つまり伝え広めたのは時衆の聖や高野聖、熊野系修験者(山伏)の関与説が定着しているようです。等妙寺の開基がなぜ曾我伝承をもって語られるのかは、現状では十分に明らかになっておらず課題です。



▲国史跡等妙寺旧境内からの展望